

(8) 陸上での小規模流出油事故対応時の留意点

タンクローリーの事故等陸上においても多くの油流出事故が発生しています。

油流出事故対応全てにいえることですが、まず流出した油が可燃性かどうかを確認します。可燃性の場合はできるだけ近づかない様にしますが、必要な場合は風上側から慎重に近づきます。

陸上での流出油事故に対応する場合、油や油処理剤等で処理した処理油は水系に放出せず、必ず全量回収すると云うことが最も重要です。このため、事故が発生したときは、手近にある砂などで堰をつくったり、排水溝を封鎖したりするなど使えるものを利用して流出を防ぎ、その後油を回収します。

アスファルト道路等地下に浸透しない場所での処理・回収

木質系油吸着材をそのまま、あるいは袋から出して油を吸着させ処理します。このほかにもゼオライト、セラミック、活性炭、綿花セルロース、再生綿、珪藻土、ピートモス等多くの吸着素材が販売されていますので、これらを活用します。

この他手軽なところでは、おが屑にしみこませたり、ゲル化剤で固めたりして回収する方法もあります。

吸着後は、産廃処理します。

ポリプロピレン等の吸着マットは、こすると繊維が路面に付着することがありますので、油を吸収させるだけにして、最後はウエス（ぼろ布）等で拭き取ります。

どうしても水洗いが必要な場合は油処理剤を原液で噴霧し、ブラシでこすった後水で洗い流します。処理油はウエス等にしみこませるか、全て容器に回収します。

処理油は産廃として処分します。

土砂等地下に浸透するおそれのある場所での処理・回収

油の染みた土砂を掘り出し、産廃として焼却します。

油の染みた土砂を掘り出し、容器に入れ油処理剤と接触させた後水洗いし、土砂は埋め戻し、処理油は産廃処理します。

土砂上の油を油処理剤で直接処理すると、処理油が浸透して地下水を汚染するおそれ大きいことから、絶対に行わないようにします。

時間はかかりますが、油の染みた土砂を掘りだして空気を吹きつけ（エアブロー）自然分解を促進させたり、処理業者に委託して、科学的分解処理、微生物分解処理、土壌洗浄や加熱による油分除去処理を行なったりすれば土砂を埋め戻すことができます。